

「教会における子ども祝福式」

早くも11月になりました。今年もあと残すところ2ヶ月であることを考えると、月日が経つのが本当に早いのを実感します。秋の深まりとともにすぐ冬を迎えていきますが、皆様のご健康が支えられ、弱さの中にある方々の上には神の平安がありますようにお祈りいたします。



私にとって、最近のテーマは「いのち」です。「いのちの尊さ」は学校の道徳の授業などで教えられることがありますが、「なぜいのちがあるのか」、「どうしていのちは尊いのか」を聖書は語ります。全世界とそこにあるもの、そして私たちが決して偶然にこの世界に存在しているのではなく、創造者であられる神様によって目的をもって造られました。

日本は超高齢化社会を迎え、同時に少子化を迎えています。国や地方自治体レベルでいろいろな少子化対策があるようですが、人口は減少しており、特に2022年の子どもの出生数は約77万人で、統計を始めた1899年以降で最少となったようです。ちなみに調べてみると私が生まれた1972年は約203万人の出生数でしたので、3分の1とは言わないまでも、そのくらい減少しています。今年2023年はさらに下回ると言われています。その原因はいろいろと考えられる中で、果たしてこの日本はどこへ向かっていくのでしょうか。大人だけでなく子どもたちのいのちの尊厳が軽んじられている時代であり、この現実と真正面から向き合うことも場合によっては必要です。

毎年、この時期になりますと、一般社会では日本の伝統行事である「七五三」が行われます。2023年11月15日(水)になります。この「七五三」の由来については諸説があり、共通していることは、子どもたちの健やかな成長を願うものです。多くのキリスト教会では日本の伝統的な「七五三」に代わって、「子ども祝福式」あるいは「児童祝福式」というものを礼拝の中で、あるいは礼拝後に執り行ないます。なぜ、そのような子ども祝福式を行うのかと言いますと、聖書は子どもたちの存在を大切に、イエス・キリストの周りには子どもたちがいたことを読むことができるからです。

新約聖書のルカの福音書18章16-17節で、イエス・キリストは弟子たちに向かって次のようにおっしゃいました。
16 しかし、イエスは幼子たちを呼び寄せて、こう言われた。「子どもたちを、わたしのところに來させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。17 まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

「子どものように」というのは、「素直」とか「純粋」という意味よりはむしろ、「小さく取るに足らない者」、「弱い存在であること」、つまり謙遜さと神様への信頼を持っている人を表しているようです。まさに親を信頼しきって、委ねる子どもたちの姿が想像できます。実際に子どもたちというのは親を離れては何もすることができません。

このような現代社会の中であって、まことの神様の恵みと守りの中に、子どもたちが健やかに成長できるように、そしてまことの神様を信じて歩むことができるようにという祈りをもって、教会で行なわれる行事が「子ども祝福式」です。七歳、五歳、三歳という年齢にかかわらず、私たちの教会では何歳であっても毎年この時期に開催します。どの親も子どもたちの健やかな成長を願うのは当然のことですし、心を込めてお祝いすることも素晴らしいことです。子どもたちは次世代を担う貴重な存在だからです。教会では11月の祝福式に限らず、毎週日曜日、「教会学校」と言って、子ども礼拝を短く持ち、聖書のお話や賛美、そして祈りを通して共にお子さんたちの「こころ」を育てています。

国分寺キリスト教会では、子ども祝福式を含めた子どもと一緒にファミリー礼拝を以下の通り行いますので、ぜひ出席していただきたく、ご案内申し上げます。当日の礼拝は大人も子どもも一緒にプロジェクターを見ながらバイブルメッセージを聞きます。子どもたちには記念品とカードのプレゼントがあります。お子さん、お孫さんと一緒に、ぜひお出かけください。☆2023年11月26日(日) 午前10時～11時30分頃

神様からの豊かな恵みと祝福が、そして子どもたちの上によき成長がありますように、心よりお祈り申し上げます。